



丸小だより

～ 実践目標 自分が輝く、みんなも輝く ～

令和元年8月30日(金) No. 5

横浜市立丸山台小学校長 新井 篤志

想定外を想定内に

校長 新井 篤志

子どもたちの声が学校中に広がり、活気にあふれる学校生活が始まりました。長い夏休みの間に子どもたちもいろいろな体験ができたことと思います。これを活力に充実した生活を過ごしてほしいです。

今年の夏休みは、猛暑と台風がとても印象に残ったような気がします。特に、台風の影響でお盆のころに交通機関が事前に計画運休を行うお知らせを出すなど今までにはなかったことが行われました。また、台風から離れていた関東地方でも雨の降り方が激しく、車を運転していてもフロントガラスの外が見えないほどの集中豪雨が頻繁に発生していました。以前に比べて台風も大型化していると言われています。これは日本近海の海水温が上昇していることによるものとも言われています。暑さも真夏は自分が子どもの頃にも言葉としてあった記憶がありますが、猛暑日という言葉は最近だと思えます。また、特別警報など命にかかわる状況を表す気象情報も今までには想定されていませんでした。やはり、地球温暖化の影響が徐々に出ているように思えます。

日本一の降雨量の和歌山県に行ったときに、やはり台風で川が氾濫し大きな被害が出た地域では、ある川沿いにあるドライブインにモニュメントが飾られていました。そのモニュメントは、川の波を表していました。実はそのモニュメントはドライブインの屋根よりも高いところにあり、そのモニュメントのところまで川の水が来たことを示しているとのことでした。その地域の人々にとっては過去のことを忘れないようにとの思いの象徴となっているとのことでした。同じようにテレビで伊勢湾台風のことを扱っているのを見ました。被害を受けた小学校に台風で犠牲になった児童の碑があり、その高さが高潮のやってきた高さを示していました。さらに、当時子どもたちが描いた伊勢湾台風の絵からは被害がいかに大きく、多くの方が犠牲になられたのかが伝わってきます。今から60年前の出来事を今に伝える思いがここにも感じられます。

9月1日は関東大震災が起きた日です。この日の前後に各地で防災訓練が行われ、阪神淡路大震災や東日本大震災などの教訓をもとに減災になるような工夫や自助・共助・公助の考えをもとにもしもの時に備えています。今の日本の状況を見ると、地震への備えはもちろんのこと台風や豪雨、そして猛暑など日常的によく起こりうる自然災害がいかに多くなっているかを感じざるを得ません。「災害は忘れた頃にやって来る」の言葉がありますが、それと合わせて「想定外のことを想定内のこととしてとらえる」考え方が必要になってきていると考えます。学校や地域で行われる防災訓練の大切さが益々増していると思えます。